

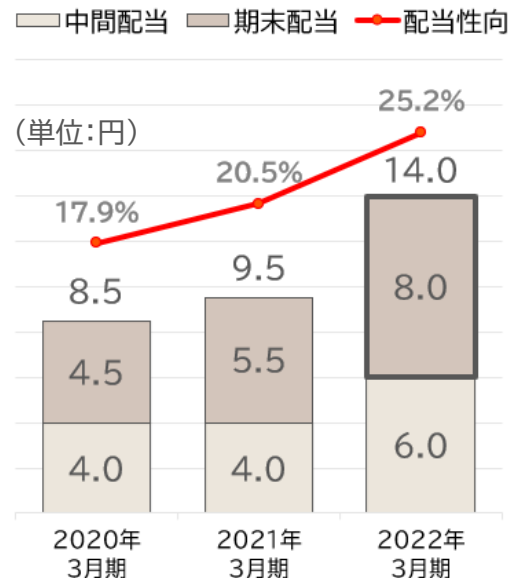
# 2022年3月期 決算短信補足資料

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、当該会計基準等を遡って適用した前連結会計年度との比較・分析を行っております。

- ・営業利益は50%増益。当期純利益も第3四半期に大きな減損あったが20%増益を達成。
- ・期末配当を予想比3円増配し8円とする。

- 水産は国内養殖の改善に加え、リバウンド消費や堅調な魚価もあり増収増益。
- 食品はコストアップの影響があるも、引き続き海外が売上好調で増収増益。

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	対前期比 増減	
			増減	増減率(%)
売上高	6,150 億円	6,936 億円	786 億円	12.8
営業利益	179 億円	270 億円	90 億円	50.4
経常利益	226 億円	323 億円	97 億円	42.8
当期 純利益	143 億円	172 億円	28 億円	20.0



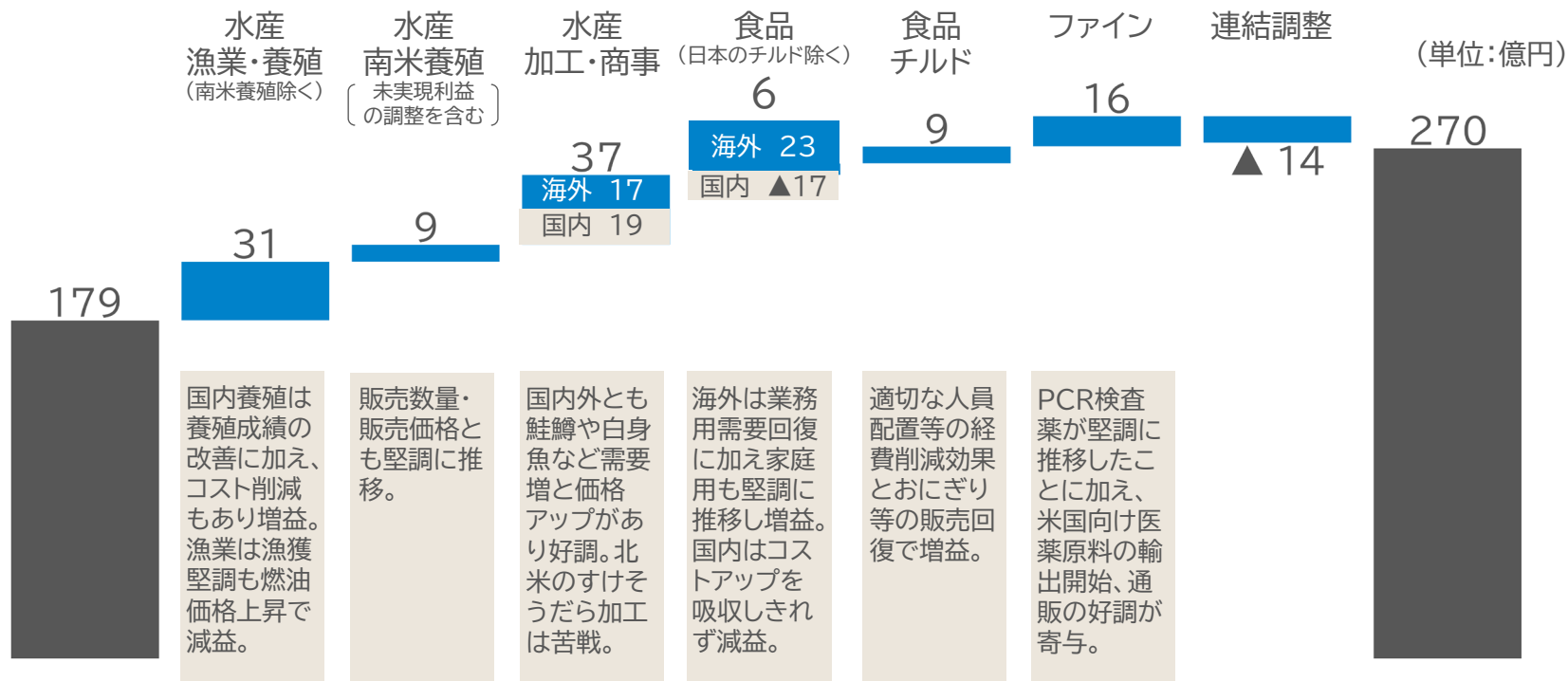
## 2022年3月期 セグメント別概況

- ・水産・食品事業で大幅増収。
- ・ファインケミカル事業も医薬原料、PCR検査薬の販売拡大。

(単位:億円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	率(%)
<b>売上高</b>	<b>6,150</b>	<b>6,936</b>	<b>786</b>	<b>12.8</b>
水産事業	2,497	2,877	379	15.2
食品事業	3,011	3,286	274	9.1
ファインケミカル事業	260	340	80	30.8
物流事業	166	157	▲8	▲5.4
その他	213	274	61	28.6
<b>営業利益</b>	<b>179</b>	<b>270</b>	<b>90</b>	<b>50.4</b>
水産事業	58	127	68	116.0
食品事業	140	154	13	9.9
ファインケミカル事業	23	40	16	69.7
物流事業	22	20	▲1	▲7.3
その他	7	10	2	34.3
全社経費	▲72	▲81	▲8	12.4
<b>経常利益</b>	<b>226</b>	<b>323</b>	<b>97</b>	<b>42.8</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>143</b>	<b>172</b>	<b>28</b>	<b>20.0</b>

## 2022年3月期 主な営業利益増減要因(前期比)

- ・行動制限の緩和に伴い需要が回復し、水産と食品が好調。
- ・国内養殖やチルドの体質強化も進んだ。



# 2022年3月期 連結貸借対照表(前期末比)

## 消費の回復に伴い運転資本が増加。

( )内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

<table border="1"> <tr> <td><b>流動資産</b></td> <td><b>2,650</b></td> <td><b>(+332)</b></td> </tr> <tr> <td>現金及び預金</td> <td>138</td> <td>(+28)</td> </tr> <tr> <td>受取手形及び売掛金</td> <td>903</td> <td>(+142)</td> </tr> <tr> <td>棚卸資産(在庫)</td> <td>1,440</td> <td>(+150)</td> </tr> <tr> <td><b>固定資産</b></td> <td><b>2,406</b></td> <td><b>(▲30)</b></td> </tr> <tr> <td>有形固定資産</td> <td>1,453</td> <td>(▲20)</td> </tr> <tr> <td>無形固定資産</td> <td>112</td> <td>(+14)</td> </tr> <tr> <td>投資その他の資産</td> <td>839</td> <td>(▲24)</td> </tr> <tr> <td><b>総資産</b></td> <td><b>5,057</b></td> <td><b>(+302)</b></td> </tr> </table>	<b>流動資産</b>	<b>2,650</b>	<b>(+332)</b>	現金及び預金	138	(+28)	受取手形及び売掛金	903	(+142)	棚卸資産(在庫)	1,440	(+150)	<b>固定資産</b>	<b>2,406</b>	<b>(▲30)</b>	有形固定資産	1,453	(▲20)	無形固定資産	112	(+14)	投資その他の資産	839	(▲24)	<b>総資産</b>	<b>5,057</b>	<b>(+302)</b>	<table border="1"> <tr> <td><b>流動負債</b></td> <td><b>1,778</b></td> <td><b>(+241)</b></td> </tr> <tr> <td>支払手形及び買掛金</td> <td>502</td> <td>(+85)</td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td>831</td> <td>(+146)</td> </tr> <tr> <td>未払費用</td> <td>252</td> <td>(+23)</td> </tr> <tr> <td><b>固定負債</b></td> <td><b>1,193</b></td> <td><b>(▲146)</b></td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td>949</td> <td>(▲172)</td> </tr> <tr> <td><b>純資産</b></td> <td><b>2,085</b></td> <td><b>(+208)</b></td> </tr> <tr> <td>自己資本</td> <td>1,897</td> <td>(+203)</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">自己資本比率</td> </tr> <tr> <td>'21/3</td> <td>35.6%</td> <td>⇒ '22/3 37.5%</td> </tr> </table>	<b>流動負債</b>	<b>1,778</b>	<b>(+241)</b>	支払手形及び買掛金	502	(+85)	短期借入金	831	(+146)	未払費用	252	(+23)	<b>固定負債</b>	<b>1,193</b>	<b>(▲146)</b>	長期借入金	949	(▲172)	<b>純資産</b>	<b>2,085</b>	<b>(+208)</b>	自己資本	1,897	(+203)	自己資本比率			'21/3	35.6%	⇒ '22/3 37.5%
<b>流動資産</b>	<b>2,650</b>	<b>(+332)</b>																																																								
現金及び預金	138	(+28)																																																								
受取手形及び売掛金	903	(+142)																																																								
棚卸資産(在庫)	1,440	(+150)																																																								
<b>固定資産</b>	<b>2,406</b>	<b>(▲30)</b>																																																								
有形固定資産	1,453	(▲20)																																																								
無形固定資産	112	(+14)																																																								
投資その他の資産	839	(▲24)																																																								
<b>総資産</b>	<b>5,057</b>	<b>(+302)</b>																																																								
<b>流動負債</b>	<b>1,778</b>	<b>(+241)</b>																																																								
支払手形及び買掛金	502	(+85)																																																								
短期借入金	831	(+146)																																																								
未払費用	252	(+23)																																																								
<b>固定負債</b>	<b>1,193</b>	<b>(▲146)</b>																																																								
長期借入金	949	(▲172)																																																								
<b>純資産</b>	<b>2,085</b>	<b>(+208)</b>																																																								
自己資本	1,897	(+203)																																																								
自己資本比率																																																										
'21/3	35.6%	⇒ '22/3 37.5%																																																								

## 2022年3月期 連結キャッシュフロー(前期比)

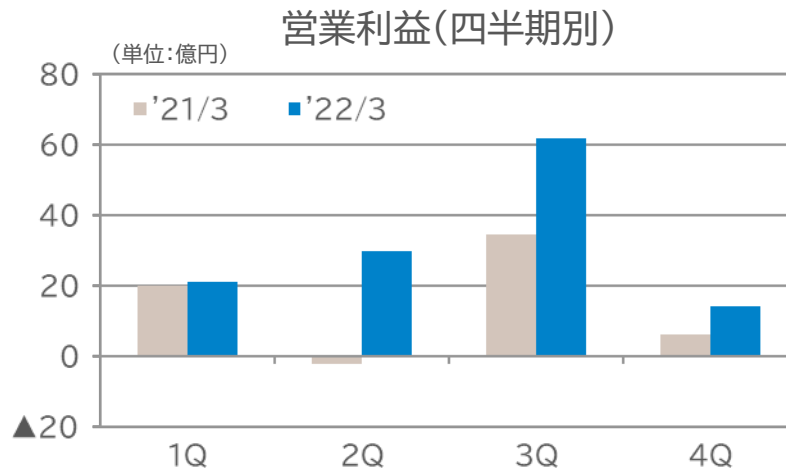
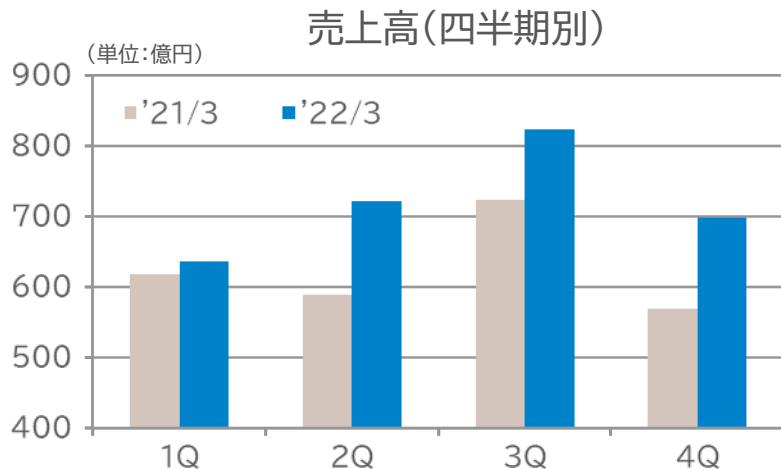
運転資本の増加により営業CFが290億円の水準に。

(単位: 億円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	増減
・税金等調整前当期純利益	224	271	46
・減価償却費(のれん償却含む)	198	199	0
・運転資本	98	▲ 125	▲ 223
・法人税等の支払額	▲ 38	▲ 90	▲ 52
・その他	▲ 24	35	60
<b>営業活動によるCF</b>	<b>459</b>	<b>291</b>	<b>▲ 167</b>
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 242	▲ 184	57
・その他	62	12	▲ 49
<b>投資活動によるCF</b>	<b>▲ 180</b>	<b>▲ 172</b>	<b>7</b>
・短期借入金の増減額	▲ 492	58	550
・長期借入金の増減額	91	▲ 120	▲ 211
・その他	▲ 46	▲ 50	▲ 4
<b>財務活動によるCF</b>	<b>▲ 447</b>	<b>▲ 112</b>	<b>335</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>147</b>	<b>156</b>	

## 2022年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

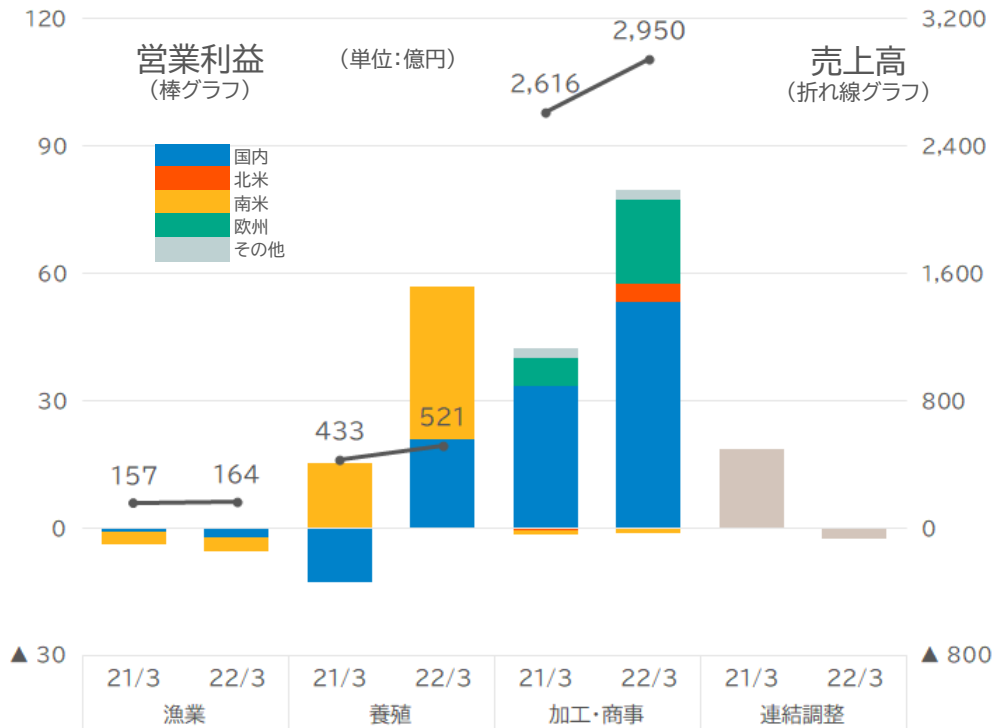
養殖の回復に加え需要・市況の改善もあり、大幅な増収増益。

(単位:億円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	2,497	2,877	379	15.2
営業利益	58	127	68	116.0

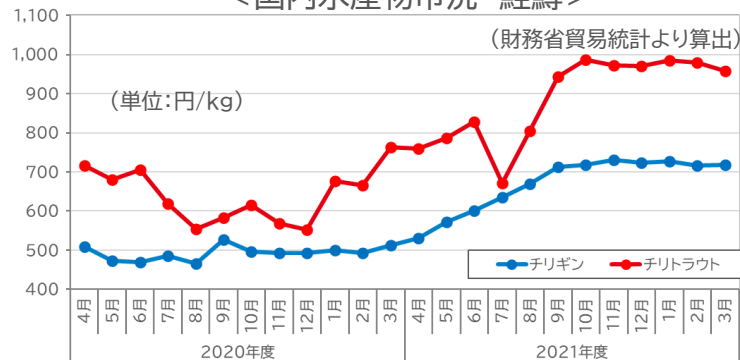


# 2022年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

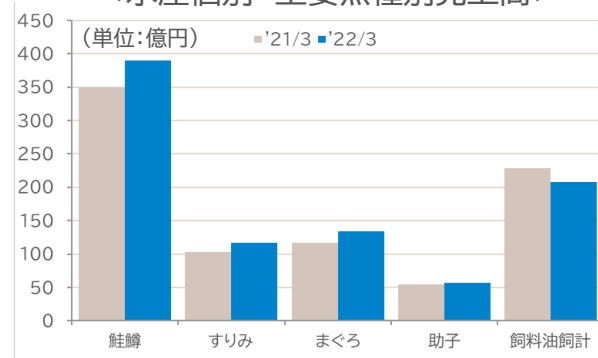
- ・養殖、商事が大きく増収増益。
- ・漁業と北米加工は苦戦。



<国内水産物市況 鮭鱒>



<水産個別 主要魚種別売上高>



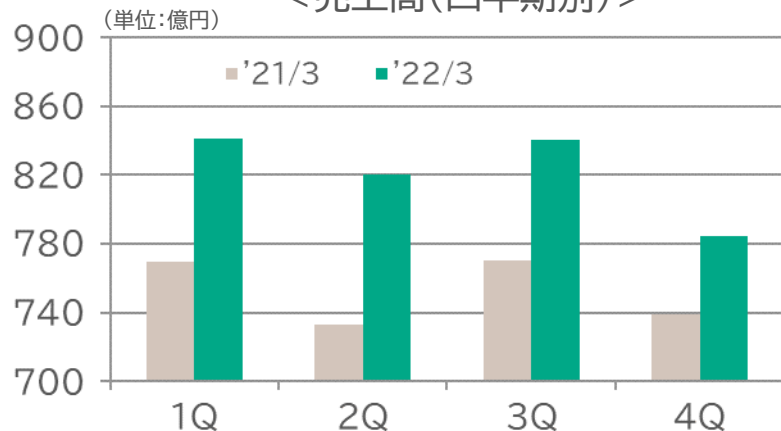


## 2022年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

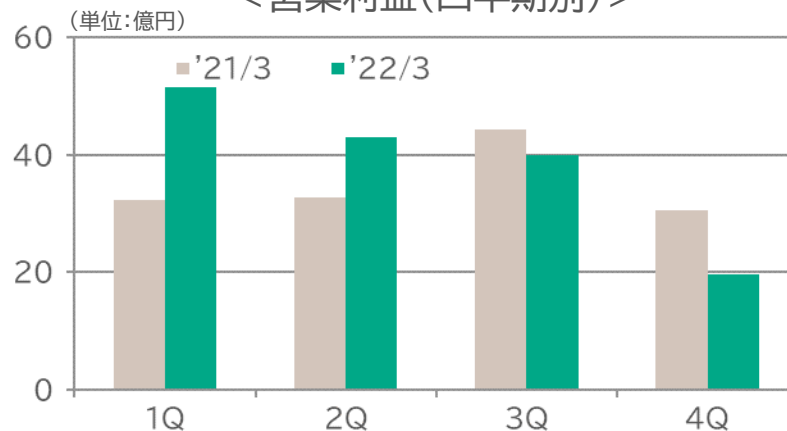
- ・行動制限緩和で業務用が好転、チルドは生産体制の適正化で増益。
- ・第3四半期からコストアップの影響が出始めた。第4四半期より値上げも効果は次年度。

(単位:億円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,011	3,286	274	9.1
営業利益	140	154	13	9.9

<売上高(四半期別)>

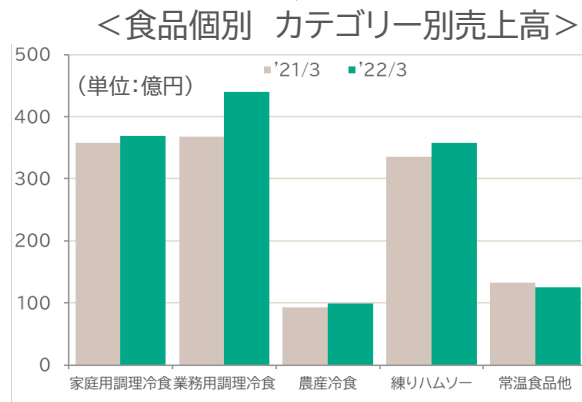
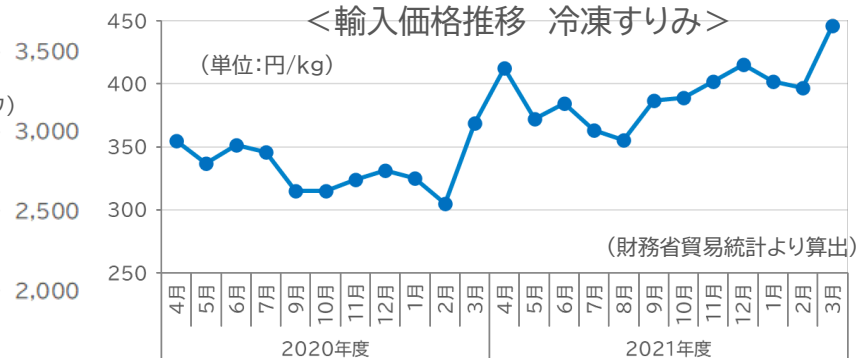
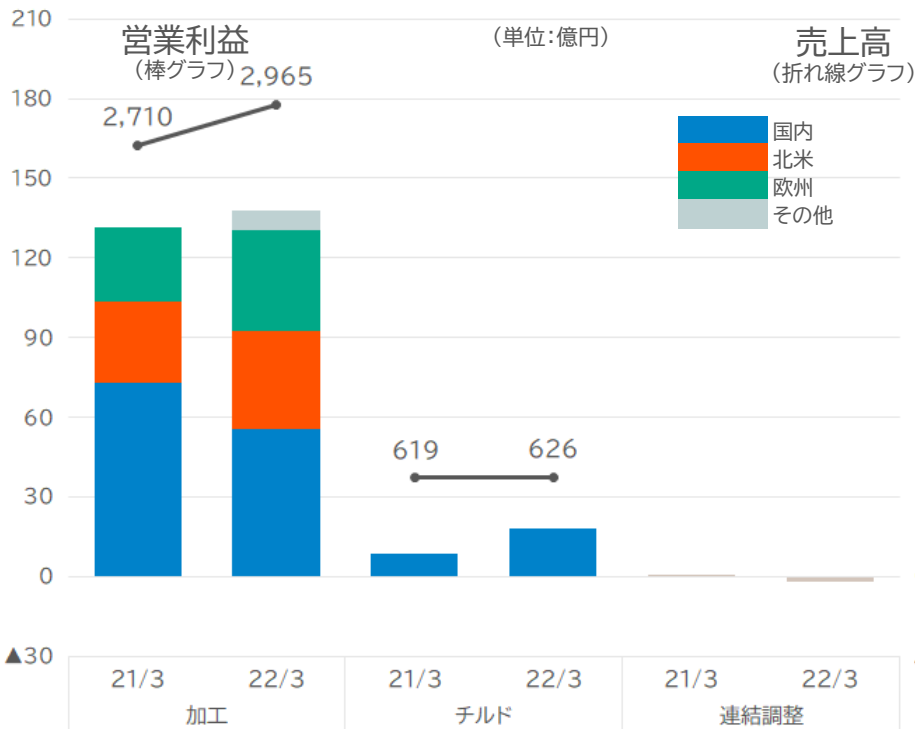


<営業利益(四半期別)>



# 2022年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

- ・欧米は家庭用・業務用とも市場が広がりコロナ以前の売上・利益を上回る。
- ・国内は販売好調も原材料価格上昇や為替影響などにより減益。

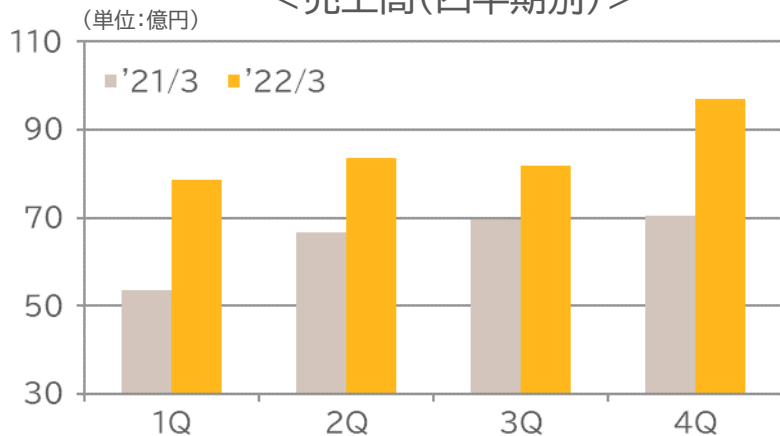


## 2022年3月期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前期比)

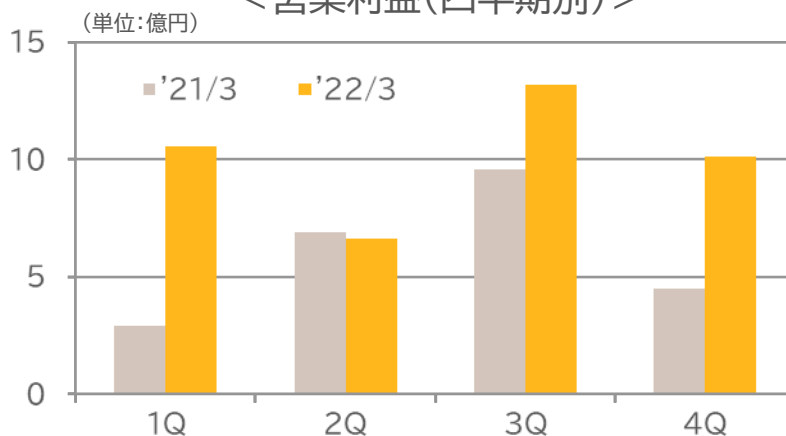
- ・米国向け医薬原料の輸出開始、健康食品の通販が堅調。
- ・PCR検査薬や海外向け培地の販売が寄与し好調。

(単位:億円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	260	340	80	30.8
営業利益	23	40	16	69.7

<売上高(四半期別)>



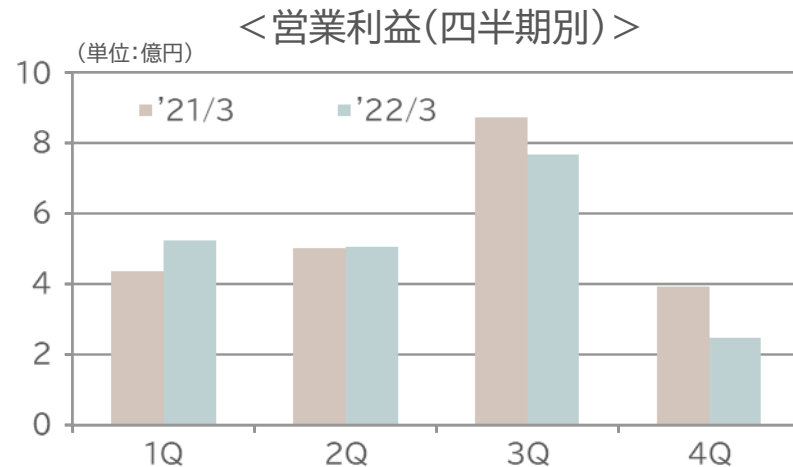
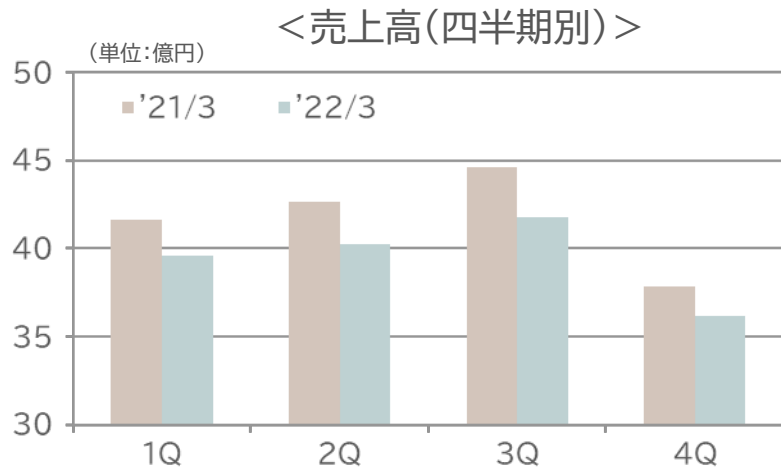
<営業利益(四半期別)>



## 2022年3月期 物流事業 売上高・営業利益(前期比)

一部事業の譲渡により減収減益。

(単位:億円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	166	157	▲8	▲5.4
営業利益	22	20	▲1	▲7.3



## 人財に関するテーマ銘柄への選定

### ▶ 「健康経営銘柄2022」に4年連続選定

EPAなど当社の強みを活用した従業員の健康づくりを推進していること、禁煙対策や柔軟な働き方の制度の拡充などが評価された。



### ▶ 「準なでしこ銘柄」に初めて選定

女性活躍推進の経営戦略への組み込みや管理職の行動・意識改革などが評価された。

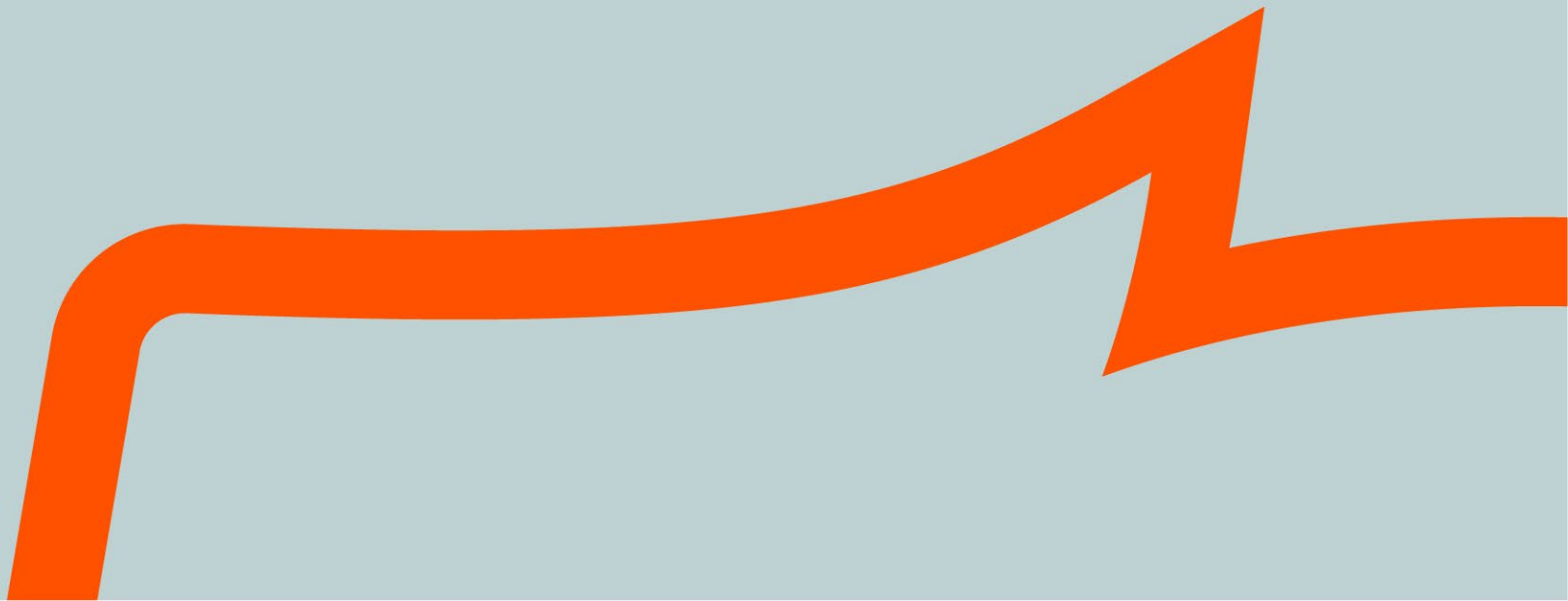


※経済産業省と東京証券取引所が共同で上場企業を選定

健康経営銘柄・・・従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組む上場企業を選定。

なでしこ銘柄・準なでしこ銘柄・・・女性活躍推進に優れた上場企業を選定。

# 2023年3月期計画

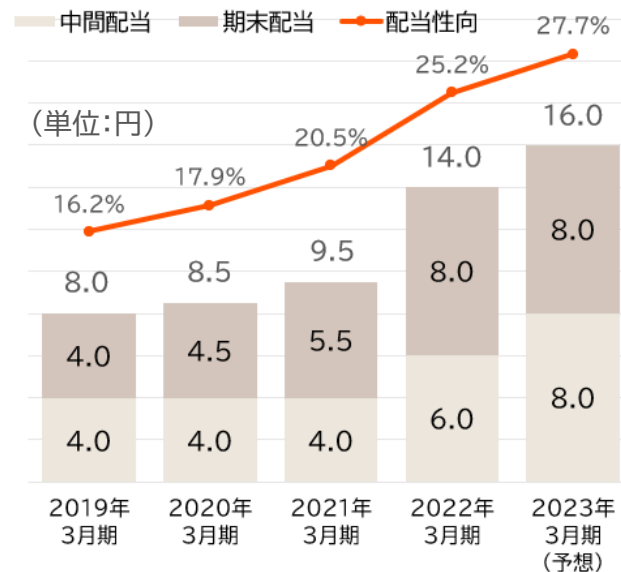


## 2023年3月期 計画 サマリー

- ・急激なコストアップを吸収しきれず苦戦を予想も、当期純利益は増益計画。
- ・配当は年間16円(前期比2円増配)を予定。

- 水産・食品とも販売価格上昇や為替の影響もあり増収。
- 値上げ等を計画もタイムラグで全てをカバーできず。
- 前期の大きな減損が無くなる一方、政策保有株式等の売却を予定。

	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	対前期比	
			増減	増減率(%)
売上高	6,936 億円	7,200 億円	263 億円	3.8
営業利益	270 億円	225 億円	▲45 億円	▲16.9
経常利益	323 億円	255 億円	▲68 億円	▲21.2
当期 純利益	172 億円	180 億円	7 億円	4.2



## 2023年3月期 計画 セグメント別概況

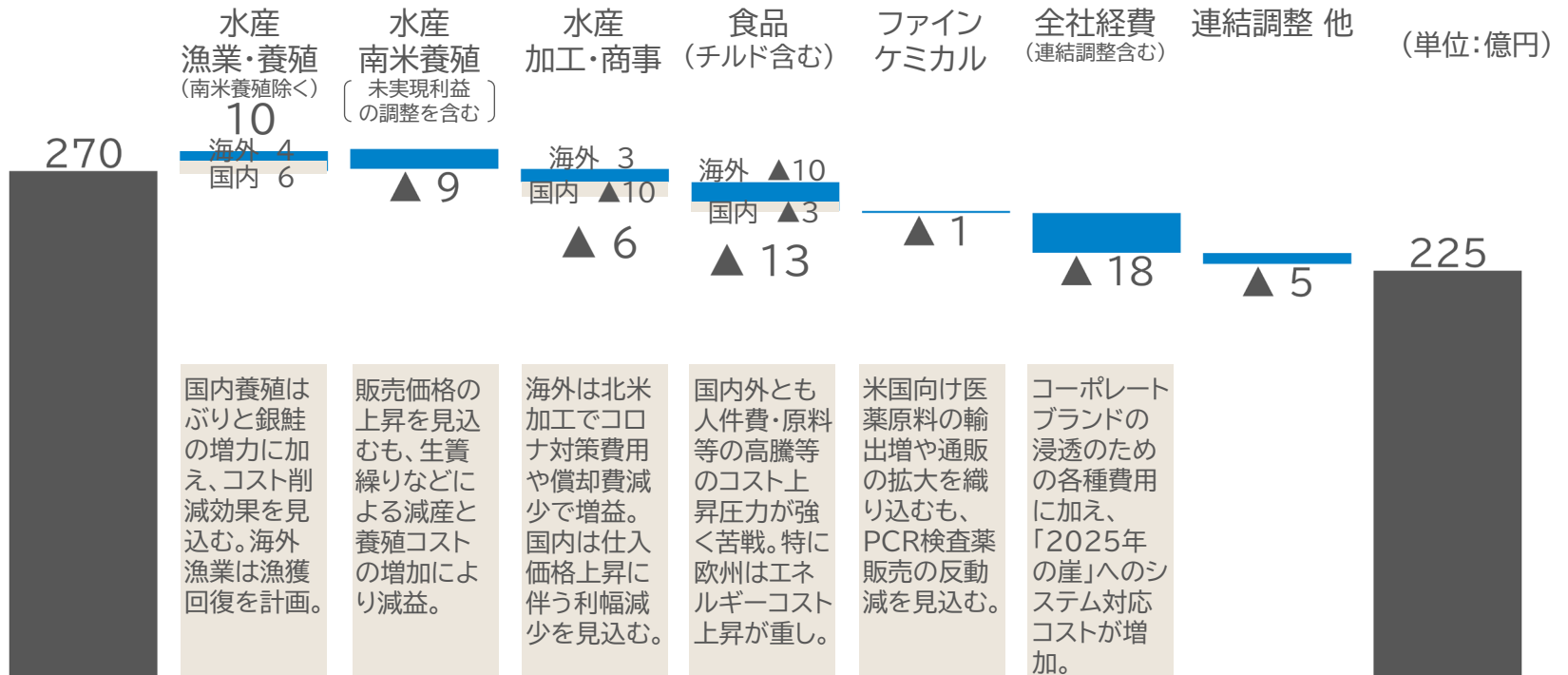
- ・水産市況は高止まり予想も前期より利幅減少。
- ・食品は原材料等コストアップを値上げ等でカバーを計画するも苦戦を予想。

(単位:億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	率(%)
<b>売上高</b>	<b>6,936</b>	<b>7,200</b>	<b>263</b>	<b>3.8</b>
水産事業	2,877	2,916	38	1.3
食品事業	3,286	3,607	320	9.8
ファインケミカル事業	340	324	▲16	▲4.9
物流事業	157	159	1	0.8
その他	274	194	▲80	▲29.3
<b>営業利益</b>	<b>270</b>	<b>225</b>	<b>▲45</b>	<b>▲16.9</b>
水産事業	127	120	▲7	▲5.7
食品事業	154	140	▲14	▲9.1
ファインケミカル事業	40	39	▲1	▲3.8
物流事業	20	19	▲0	▲4.5
その他	10	6	▲3	▲35.4
全社経費	▲81	▲100	▲18	22.8
<b>経常利益</b>	<b>323</b>	<b>255</b>	<b>▲68</b>	<b>▲21.2</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>172</b>	<b>180</b>	<b>7</b>	<b>4.2</b>



# 2023年3月期 計画 主な営業利益増減要因(前期比)

国内養殖事業の改善を見込むも、ロシアによるウクライナ侵攻の影響等コストプッシュ圧力が強く総じて減益。ブランドへの投資を実施予定。



## 2023年3月期の取組み：水産事業①（国内）

養殖事業を安定させると同時に、「食材化」を推進する取組みを強化。

(単位:億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	2,877	2,916	38	1.3
営業利益	127	120	▲7	▲5.7

### ▶ 国内養殖事業の安定化と拡大

- ー (銀鮭・かんぱち)育種による成長性改善・生産量増大・コスト削減。岩手県で銀鮭養殖事業開始。
- ー (まぐろ)2つの養殖会社の協働によるコスト削減。
- ー (ぶり)完全養殖の優位性を最大限に活かして出荷拡大。大型生簀への転換により、数量増や作業集約によるコスト削減など、成長の基礎をさらに固める。

### ▶ 食材化の推進

- ー ITを活用した流通プラットフォームを構築し、情報集約と活用、マーケティング・商品開発の活性化により、食材化をさらに推進することを計画。

首都圏・近畿・中京エリアに流通  
プラットフォームを構築



北米は赤字大幅削減。南米と欧州はコスト高により苦戦を見込む。



### ▶ 北米

<加工>

- ー コロナ対応コストの削減
- ー 前年度に実施した固定資産の減損による減価償却費の減少
- ー 最低賃金引上げによる影響をワーカー数削減で軽減

<商事>

鮭鱒は南米養殖事業との協働や新規調達先の獲得などで増収を見込むが、調達コストの増加により利幅減少。

### ▶ 南米

<養殖>

生簀繰りによる水揚げ数量減少や養殖コスト増加などのマイナス影響を、販売価格の上昇によるプラス影響等でカバーも苦戦を予想。

<漁業>

白身魚の水産資源が回復基調にあることを織り込む。

### ▶ 欧州

<商事>

水産物の値上がりや販売エリアの拡大などによる増収を見込むが、物流費や電気代・倉庫代などのコスト上昇などにより利幅減少。

## 大きく伸びている健康・個食・簡便ニーズに対応した新領域商品の展開

(単位:億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,286	3,607	320	9.8
営業利益	154	140	▲14	▲9.1

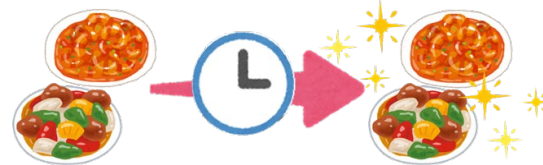
### ▶ 健康領域商品の拡大

素材の機能性を追求し、美味しい健康習慣をサポートしていく。



### ▶ 新規カテゴリーの開拓(キューディッシュ)

当社の冷凍とチルドのノウハウを活かし、フローズンチルド惣菜の商品カテゴリーを拡大する。



ポイント

- ・コロナ禍での内食需要の伸長に対応
- ・添加物削減で美味しさが向上
- ・賞味期限が長く設定できるため、フードロス削減につながる

市場・エリアと取扱製品の拡大によって、欧米での事業展開を加速する。

	北米	欧州
既存市場	家庭用えび商品・業務用白身魚商品を拡大する。	・タパスなどの新カテゴリーを中心に市場をさらに拡大していく。 ・英国2社(Caistor、Three Oceans)の統合による収益改善。
新規市場	アジアマーケットの拡大 →寿司サーモンの生産能力拡大やニッスイブランド商品の拡売。	ドイツ・スペイン市場を開拓。

### ▶ コストアップと値上げ対応

<米国> 原材料と運送関連のコスト増を値上げでカバー  
電力料や燃油代などのエネルギーコスト上昇に加え、白身魚原料の漁獲次第でさらなるコストアップを想定。

<欧州> 原材料高を値上げでカバー  
包材や副原料、直近でコスト上昇しているエネルギーコストは、値上げによりカバーしていく方針もタイムラグは否めず。

米国向け医薬原料の輸出増や通販の拡大を見込むも、PCR検査薬の販売は反動減。

(単位:億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	340	324	▲16	▲4.9
営業利益	40	39	▲1	▲3.8



## ▶ 国内(機能性食品・通販)

食品形態商品にEPA・DHAを添加することで  
差別化→潜在市場を開拓する

ー 中性脂肪や記憶力対策を通販での商品展開でサポート



ー ドラッグストアとの協働による小売市場への展開

## ▶ 海外

< 医薬原料 >

米国向け販売の安定に向けた取組みを継続  
海外展開のさらなる拡大に向けた品質保証体制の強化

< 診断薬・検査薬 >

産業検査薬:コンパクトドライ(菌数測定用簡易培地)  
のグローバル展開の加速

ブランドの浸透を図るため、CM投入など各種施策を実施予定

▶ ブランドシンボルとブランドスローガンの導入

**ミッション(ブランドプロミス)**

私たちを突き動かすもの。  
それは「人々により良い食をお届けしたい」という志。

海で培ったモノづくりの心と未知を切り拓く力で、  
健やかな生活とサステナブルな未来を実現する  
**新しい“食”**を創造していきます。



まだ見ぬ、食の力を。

▶ 社名の変更

**新社名**

(日) 株式会社ニッスイ

(英) Nissui Corporation

6月28日の株主総会の承認を経て  
2023年1月1日より、リブランドに  
合わせ称号を変更予定。

急激な為替変動やインフレ懸念など  
厳しい環境が予想されますが、  
中期経営計画達成に向けて、  
しっかり取組んでまいります。



まだ見ぬ、食の力を。



## 見通しに関する注意事項



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

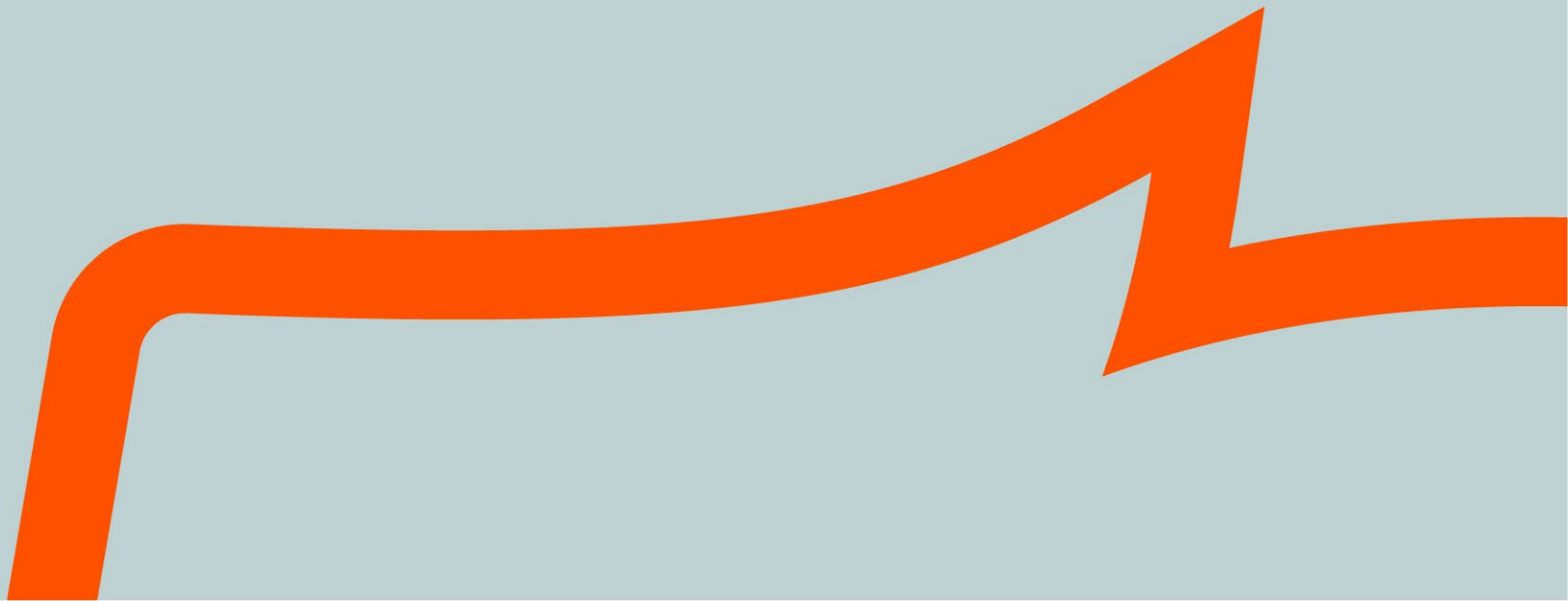
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課

03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

## 參考資料



## 2022年3月期 連結損益計算書(前期比)

(単位:億円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	増減	主な増減要因
売上高	<b>6,150</b>	<b>6,936</b>	<b>786</b>	
売上総利益	<b>964</b>	<b>1,110</b>	<b>146</b>	
販売費・一般管理費	784	840	55	
営業利益	<b>179</b>	<b>270</b>	<b>90</b>	
営業外収益	61	71	10	助成金収入+13
営業外費用	14	18	4	
経常利益	<b>226</b>	<b>323</b>	<b>97</b>	
特別利益	22	22	▲ 0	
特別損失	24	74	49	減損損失+49(北米水産加工 +50)
税金等調整前当期純利益	<b>224</b>	<b>271</b>	<b>46</b>	
法人税等	66	81	15	
法人税等調整額	6	6	▲ 0	
当期純利益	<b>151</b>	<b>183</b>	<b>32</b>	
非支配株主に帰属する 当期純利益	7	10	3	
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>143</b>	<b>172</b>	<b>28</b>	

## 2022年3月期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート

主要在外会社の 為替換算レート	2021年3月期 実績		2022年3月期 実績		前期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,179	1,255	1,348	1,486	168	230	180	50
EUR(百万ユーロ)	331	405	362	472	31	67	37	30
DKK(百万クローネ)	2,665	436	3,174	556	508	119	83	35
その他通貨	—	210	—	267	—	56	41	15
計		2,308		2,782		474	342	131

### 【参考:為替レート】

※右表の為替レートは  
第4四半期の平均

	2021年3月期 第4四半期	2022年3月期 第4四半期	変動率
米ドル(USD)	104.00 円	114.15 円	9.8%
ユーロ(EUR)	124.49 円	130.56 円	4.9%
デンマーククローネ (DKK)	16.73 円	17.56 円	5.0%

# 2022年3月期 セグメントマトリックス 売上高(前期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	2,167 (166)	526 (92)	260 (43)	62 (0)	619 (124)	<b>3,636 (428)</b>	▲758 (▲48)	<b>2,877 (379)</b>
	2,001	433	216	61	494	<b>3,207</b>	▲709	<b>2,497</b>
食品事業	2,284 (49)	698 (92)		70 (18)	538 (100)	<b>3,591 (261)</b>	▲305 (12)	<b>3,286 (274)</b>
	2,234	605		51	438	<b>3,330</b>	▲318	<b>3,011</b>
ファイン 事業	365 (80)			5 (0)		<b>370 (80)</b>	▲30 (▲0)	<b>340 (80)</b>
	284			5		<b>290</b>	▲29	<b>260</b>
物流事業	284 (3)					<b>284 (3)</b>	▲126 (▲12)	<b>157 (▲8)</b>
	281					<b>281</b>	▲114	<b>166</b>
その他 事業	339 (57)			1 (0)		<b>340 (57)</b>	▲66 (3)	<b>274 (61)</b>
	281			1		<b>283</b>	▲70	<b>213</b>
仮計	<b>5,441 (356)</b>	<b>1,224 (185)</b>	<b>260 (43)</b>	<b>139 (19)</b>	<b>1,158 (225)</b>	<b>8,223 (831)</b>		
	<b>5,084</b>	<b>1,039</b>	<b>216</b>	<b>120</b>	<b>933</b>	<b>7,392</b>		
連結調整	▲855 (▲16)	▲149 (▲2)	▲169 (▲11)	▲100 (▲14)	▲11 (▲0)		▲1,287 (▲44)	
	▲839	▲146	▲158	▲85	▲11		▲1,242	
連結 計	<b>4,585 (340)</b>	<b>1,075 (183)</b>	<b>90 (32)</b>	<b>39 (4)</b>	<b>1,146 (225)</b>			<b>6,936 (786)</b>
	<b>4,244</b>	<b>892</b>	<b>57</b>	<b>34</b>	<b>921</b>			<b>6,150</b>

※上段は当期累計実績、下段は前期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

29 | ※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

# 2022年3月期 セグメントマトリックス 営業利益(前期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	72 (52)	4 (4)	30 (19)	2 (▲0)	19 (12)		<b>129 (89)</b>	▲2 (▲21)	<b>127 (68)</b>	4.4 (2.1)
	19	▲0	11	2	6		<b>40</b>	18	<b>58</b>	2.4
食品事業	73 (▲7)	36 (6)		7 (7)	38 (10)		<b>155 (16)</b>	▲1 (▲2)	<b>154 (13)</b>	4.7 (0.0)
	81	30		▲0	28		<b>139</b>	0	<b>140</b>	4.7
ファイン事業	39 (16)			1 (0)			<b>40 (16)</b>	▲0 (▲0)	<b>40 (16)</b>	11.9 (2.7)
	23			0			<b>23</b>	0	<b>23</b>	9.2
物流事業	20 (▲1)						<b>20 (▲1)</b>	0 (0)	<b>20 (▲1)</b>	12.9 (▲0.3)
	22						<b>22</b>	▲0	<b>22</b>	13.2
その他事業	9 (2)			0 (▲0)			<b>9 (2)</b>	0 (0)	<b>10 (2)</b>	3.7 (0.2)
	6			0			<b>7</b>	0	<b>7</b>	3.5
全社経費						▲80 (▲7)	<b>▲80 (▲7)</b>	▲0 (▲1)	<b>▲81 (▲8)</b>	
						▲72	<b>▲72</b>	0	<b>▲72</b>	
仮計	<b>215 (62)</b>	<b>40 (10)</b>	<b>30 (19)</b>	<b>10 (7)</b>	<b>57 (22)</b>	<b>▲80 (▲7)</b>	<b>275 (115)</b>			
	<b>153</b>	<b>30</b>	<b>11</b>	<b>2</b>	<b>34</b>	<b>▲72</b>	<b>160</b>			
連結調整	0 (▲11)	1 (▲0)	▲2 (▲10)	▲0 (▲1)	▲3 (▲0)	0 (0)		▲4 (▲24)		
	11	2	7	0	▲2	▲0		19		
連結計	<b>215 (50)</b>	<b>42 (10)</b>	<b>28 (8)</b>	<b>10 (6)</b>	<b>54 (22)</b>	<b>▲80 (▲7)</b>			<b>270 (90)</b>	3.9 (1.0)
	<b>164</b>	<b>32</b>	<b>19</b>	<b>3</b>	<b>32</b>	<b>▲73</b>			<b>179</b>	2.9

※上段は当期累計実績、下段は前期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

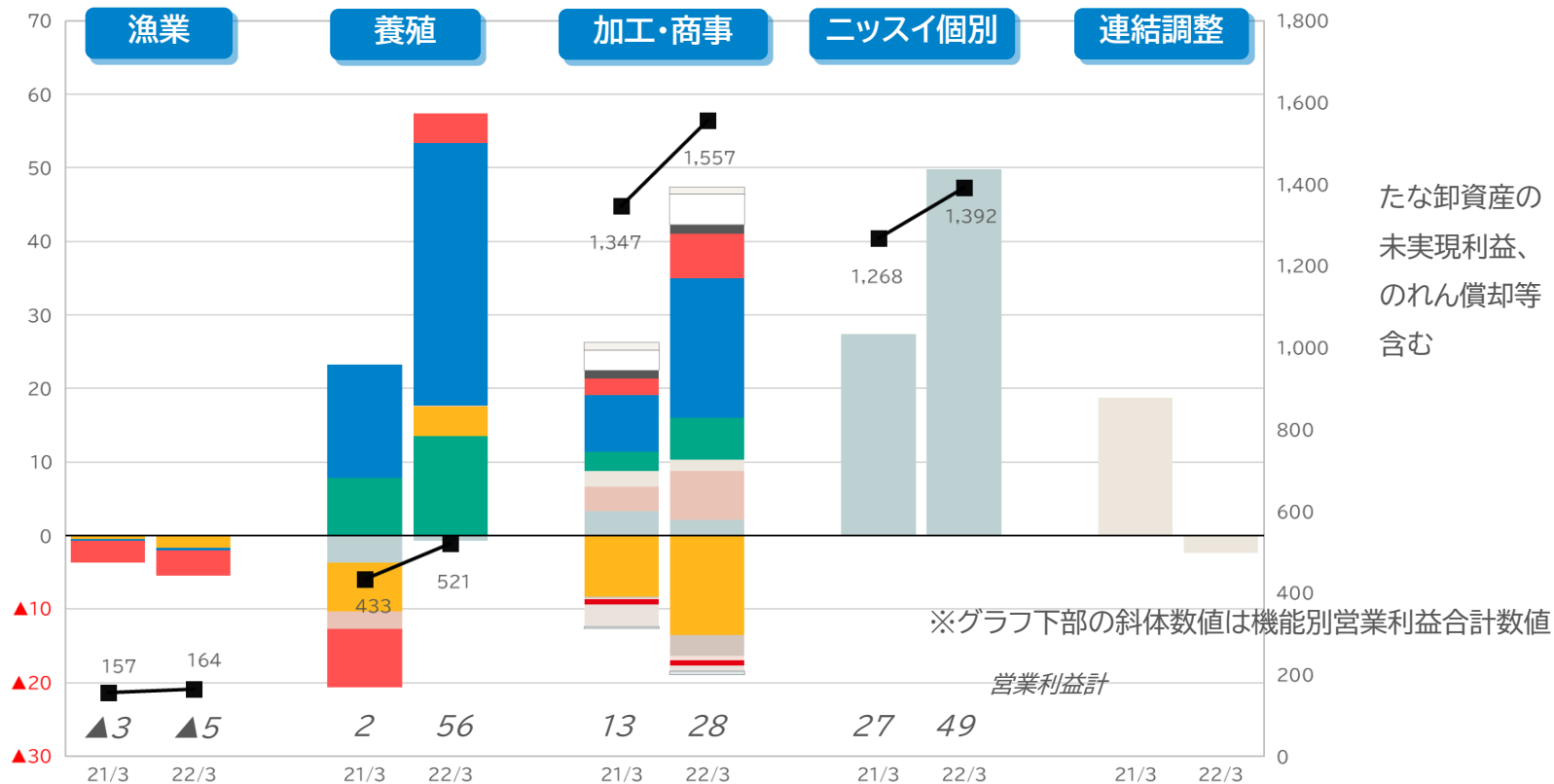
※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

# 2022年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

営業利益(棒グラフ)

(単位:億円)

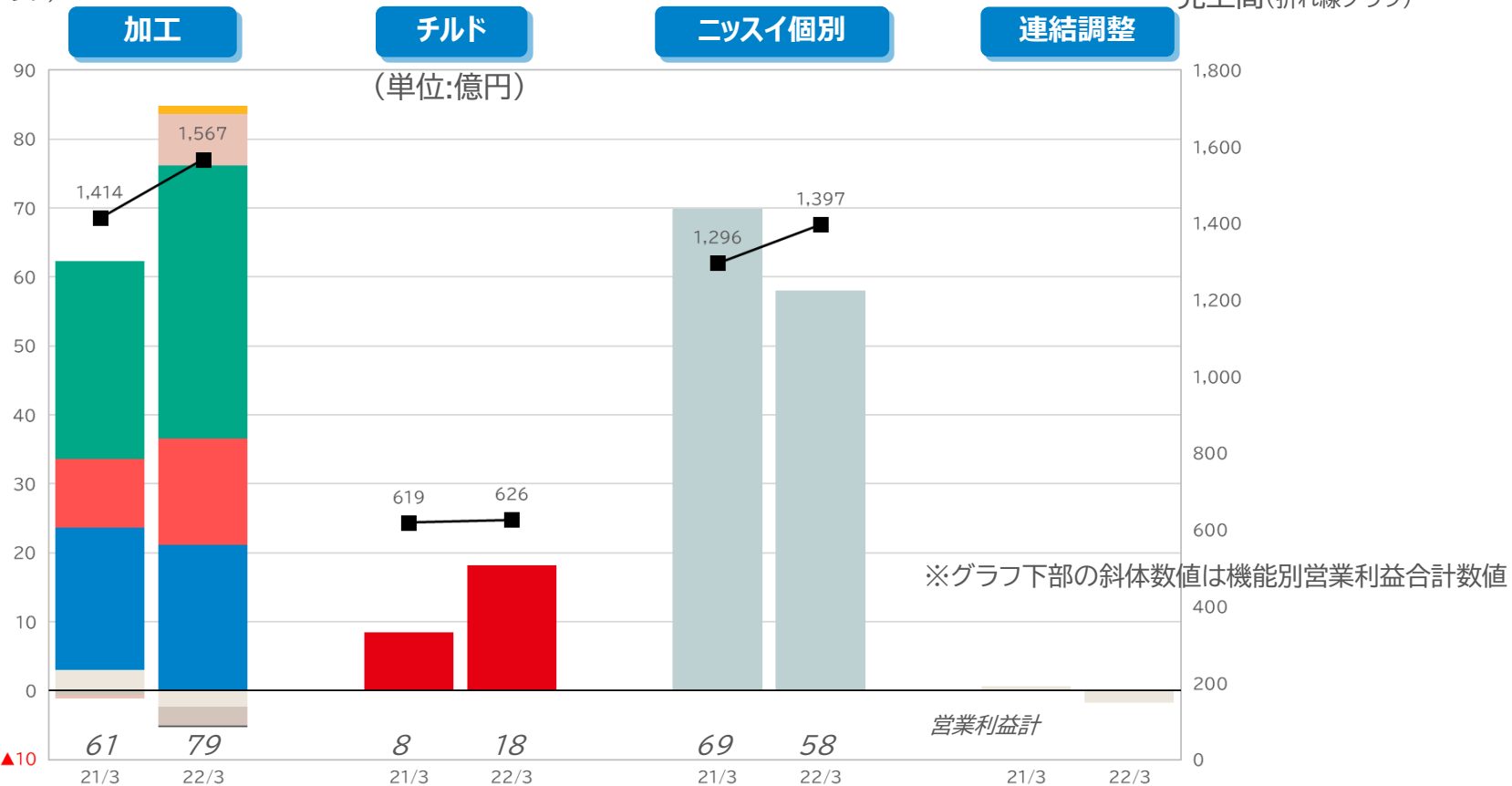
売上高(折れ線グラフ)



# 2022年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

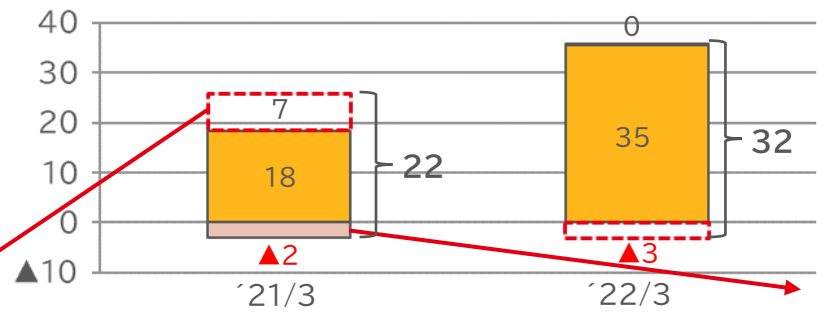
営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)



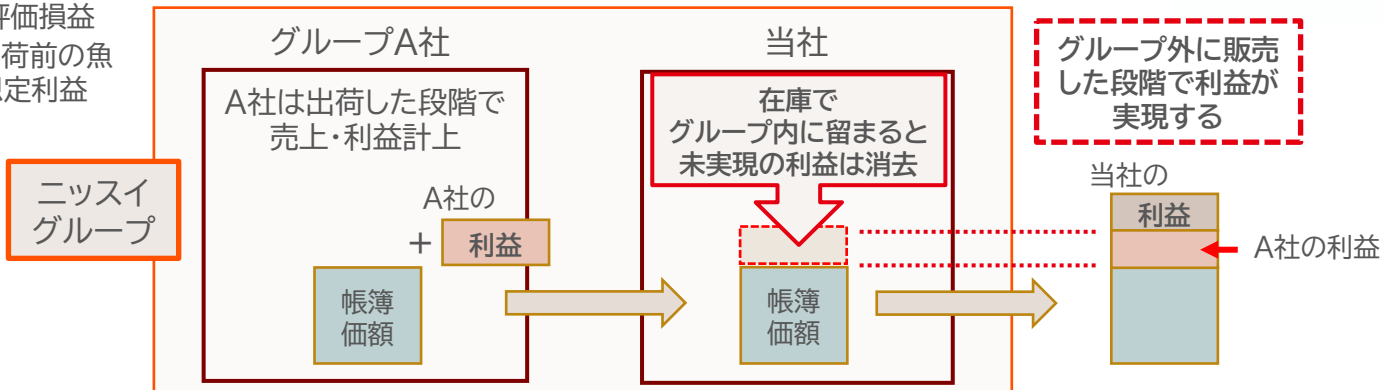


## 販売数量・販売価格とも堅調に推移



※1 在池魚評価損益  
生簀にいる出荷前の魚  
(在池魚)の想定利益

※2 在庫に含まれる  
未実現利益の調整



ニッセイ  
グループ